

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume
147
2021.7

公益財団法人PHD協会
2021年度会報147号



We stand
with
Myanmar



PEACE HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT
公益財団法人PHD協会



PHD LETTER Volume.147

Contents

- P.1 「みんなのいえ」ロゴ完成!
- P.2 2021年度事業方針・計画
- P.3-4 国内研修生 2.0
- P.5-6 国内研修生 1.0
- P.7-8 **PHD Movement** vol.30
 ~国内の困窮外国人と「共に生きる」の試み~
- P.9 With MYANMAR
- P.10-12 元研修生たちの今「ミャンマー」
- P.13-14 With Myanmar基金「寄り添いの想いをカタチに」
 ミャンマー支援活動
- P.15 PHDNews

表紙写真/国内研修生とミャンマー留学生たち。ミャンマーの平和を願って。



PEACE, HEALTH&HUMAN DEVELOPMENT
公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和(Peace)と健康(Health)を担う人づくり(Human Development)をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年に今井鎮雄(初代PHD協合理事長)と共にPHD協会を設立しました。

PHD LETTER 147号

発行：公益財団法人PHD協会
 住所：〒653-0836 神戸市長田区
 神楽町3-7-4
 電話：078-414-7750
 FAX：078-414-7611
 E-mail：info@phd-kobe.org
 URL：http://www.phd-kobe.org
 郵便振替口座：公益財団法人PHD協会
 01110-6-29688

2021年度事業方針・計画

方針

「Withコロナの新しい研修事業の確立、国内での居住支援事業の確立」
 +
 ミャンマー民主化支援

2021年度は2022年春の研修生招聘再開を見据え、感染症対策を取り入れた新スタイルの研修事業確立を目指す。

具体的には国内研修生制度をアップデートし「国内研修生制度2.0」を始動させる。従来よりも外国籍の方を積極的に受け入れることで、国内での人づくり機能を強化すると同時に新しい研修事業の模索を行う。また2020年10月に開設した「国際協力・交流シェアハウス みんなのいえ」を軸とした国内での居住支援事業の発展、研修事業との融合、登録支援機関の登録を行う。年度目標としては、研修事業と居住支援事業の両立を目指す。

最後に2021年2月1日にミャンマーで発生した軍事クーデターへの対応として、民主化運動支援をミャンマーにいる元研修生達と共に行う。

研修事業

留学生ナンミミさんとロンさんが国内研修生2.0として当会とともに活動していく。二人とも母国ミャンマー、そして自民族カレンへの想いが強い。長引くコロナ禍の中、研修事業の再構築が試される1年となるが、それぞれが掲げるゴールや未来に繋がる研修を実施したい。ナンミミさんは、製菓+マネジメント研修を中心に、当会の外国人支援事業にも積極的に関わってもらい。ロンさんには、サッカー指導と動画編集の研修から実践力を磨いてもらう(詳細はP3-4)。

居住支援事業

昨年開始した新規事業。コロナ禍で仕事を失ったり、就労時間を削減された外国人、保証人や頼れる人のいない困窮外国人に寄り添い、心の拠り所となる住まいの提供を行う。具体的にはシェアハウス「みんなのいえ」(定員9名)への入居と他の民間住宅・公営住宅への入居を支援する。居住支援法人として行政や警察等とも連携し、居住支援を実施する。また居住以外の生活支援も行う(詳細はP7-8)。

広報・啓発事業

2021年度は40周年を好機に、PHD協会の活動ならびに運動の根幹を記念誌、記念式典を通じて広報する。これまでは「記録」として撮影されていた動画を編集し、動画配信サイトにて定期的な更新を行い、常時閲覧できるようにする。また、広報物にて、国内での事業となる居住支援をわかりやすく支援者の皆様へ伝えるとともに、ミャンマーの民主化への一助となるように、継続した興味・関心呼びかける。

~「みんなのいえ」ロゴ完成!~

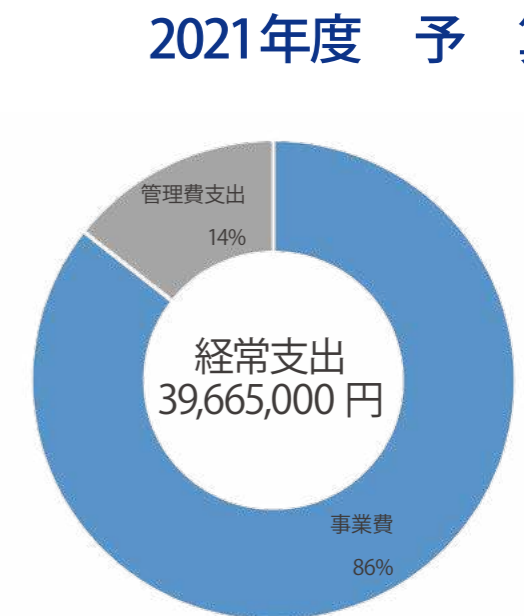
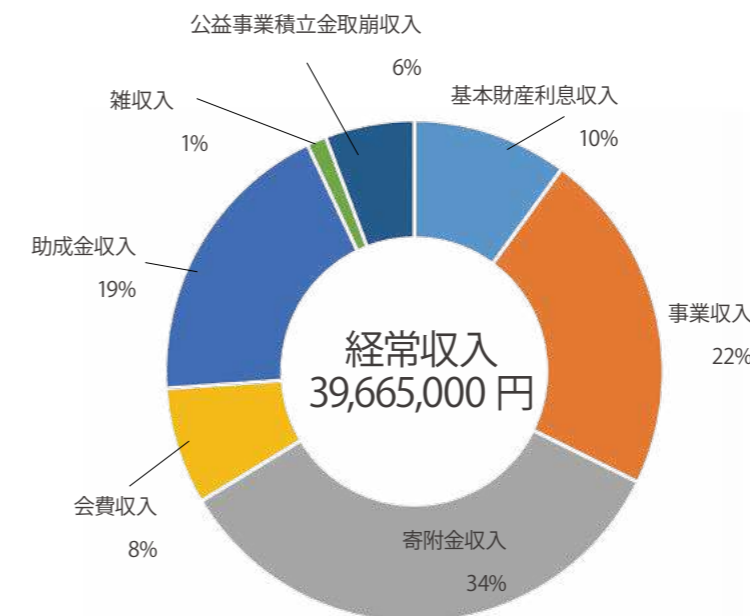


ロゴでこだわったのは方向性を表現することです。困窮している方が入居した後に態勢を立て直して、自立していくイメージ。小さい丸が入居者をイメージしており、多くの方が入居し、巣立って行ってほしい。PHD協会は自立を支援していくという好循環の輪をつかっていきたいです。

しかしながら、この好循環は事務局だけでは作れません。ロゴの丸は入居者でもあり、本事業に参加下さる皆様でもあります。具体的にはマンスリーサポーター制度を発足しますので、ぜひご参加下さい(詳細はP.15)。またお近くに困窮している外国人の方が居られたらご一報いただくという参加も大歓迎です。



コチラ「みんなのいえ」の間取り図



PHD1期国内研修生2.0紹介 (2021年度)



山本 健太郎=文



ミャンマー カレン民族旗

ナ ナ ミ ミ

ミャンマー カレン民族 / 25 歳

ミャンマーのエーヤワディ地方出身のナンミミさん。彼女の出身地の村までは、ヤンゴンから車で約5時間、その後エーヤワディ川を渡ってようやく辿り着きます。

昨年10月末に留学生として来日するも、コロナ禍で仕事も見つからず、生活苦に陥っていました。PHDとの出会いは、同年12月末の食料支援を通じて。長田区のミャンマー留学生グループ内でも、彼女が積極的にリーダーシップを取って、支援を必要とする人たちの声を私たちに届けてくれました。

当会にとって初めてのカレン出身の研修生。ナンミミさんはとりわけ自民族への思いが強く、70年以上続く国軍との内戦、カレン民族への虐殺や迫害に心を痛めています。その中で自分にできることを問い、SNSでの発信やデモ参加を通じて、ミャンマーの平和や民族の融和について訴え続けています。

ナンミミさんの研修したいこと

製菓+マネジメント

ナンミミさんはカレン州難民キャンプを訪れた経験から難民の人々のための活動をしたいという強い意欲を持っています。日本でクレープやケーキ作りについて学び、

帰国後に自身のお店を持つこと、そして、カレン難民の女性たちへの指導を通して雇用も創出するという夢があります。自身の活動を通じて、カレン民族の社会進出やエンパワーメントに貢献したいと考えています。

ソーシャルワーク

NGOでの活動や運営にも興味があるというナンミミさん。当会シェアハウスにも居住しており、日々私たちの活動にも関わってくれています。食料・居住支援等にも積極的に参加してもらうことで、対人援助スキルを磨いてもらう予定です。

ゴミ処理

自身の村ではゴミの分別習慣がなく、処理に困っているとのこと。日本のゴミ処理の仕方について学び、帰国後の活動に生かしていきたいと考えています。

ナンミミさんの自己紹介

私の名前はナンミミと申します。ミャンマーのカレン民族です。エーヤワディ地方出身です。留学生として日本に来ました。やりたいことはたくさんありますが、今のミャンマーの状態もあり迷っています。

PHDと出会ったのは昨年12月末のことでした。今は日本語学校で勉強しています。今年4月からPHDで国内研修生としてお菓子作りやソーシャルワークを勉強しています。ミャンマーに帰ったらカレン州にいる難民たちのため日本で学んだ知識と技術を教えます。特に親のいない子どもたちもサポートしたいです。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

ロータリー米山記念奨学会

本年度は米山記念奨学生として、ナンミミさんが川西ロータリークラブでお世話になります。毎月の例会に出席し、研修や日本の生活の様子などを報告、交流を通じて学びます。

6月25日
初めての例会参加

山岡 英次さん
川西ロータリークラブ

ナンミミさんのカウンセラー



ロ ン

ミャンマー カレン民族 / 25 歳

ロンの出身地カレン州はミャンマーの南東に位置し、タイとの国境に隣接しています。

今年3月末から、カレン民族と国軍の対立は激しさを増し、軍によるカレン州への空爆も相次いでいます。州内の国内避難民も日に日に増えている状況です。普段は穏やかなロンさんですが、カレン州の現況に対しては強い憤りと危機感を感じています。

軍事クーデターに加え、民族間の対立も国の大きな問題です。ロンさんは、カレン民族だけでなく他の少数民族が、ビルマ民族とより友好的に政治や経済を動かしていけるような未来を望んでいます。そのためには、周囲への発信が欠かせません。PHDでの活動を通して、ロンさんはミャンマーやカレンの歴史と現況を伝えていきます。

Myanmar

135の民族からなる多民族国家

人口：約5,400万人

- ビルマ族 9民族 (約68%)
- シャン族 33民族 (約9%)
- カレン族 11民族 (約8%)
- カチン族 12民族 (約7%)
- ラカイン族 7民族 (約4%)
- チン族 53民族 (約2%)
- カヤー族 9民族 (3~4万人)

ロンさんの研修したいこと

サッカー指導

幼少期からサッカーを習い続けてきたロンさん。ミャンマーの大学ではスポーツマネジメントを専攻し、本や座学を中心に学びました。日本では、自らのスキルや知識を子どもたちに実践でコーチングする機会を持ちたいと思っています。現在、神戸YMCAさんのサッカー教室にボランティアリーダーとして関わらせていただきながら、実践的な指導法を学んでいます。将来的にはカレンの若者や子どもたちにサッカーを教えたいと意欲的です。

動画作成・編集・発信

カレンの実情は、一般的なミャンマーやロヒンギャ等のニュースに比べ、日本や世界の人々にあまり知られていません。ロンさんはカレンで起きていることを積極的に外へ伝えていくことで、この状況を変えたいと考えています。動画作成や編集の研修で得た知識を自らの発信へと繋げ、世界に周知させていきたいという思いです。



ロンさんの自己紹介

私の名前はロンと申します。ミャンマーのカレン民族です。カレン州の出身です。ミャンマーのダゴン大学でスポーツマネジメントについて勉強しました。その後、昨年10月末に留学生として日本に来て、語学学校で日本語を勉強しています。

今年4月からPHD協会で研修生として、サッカー指導や動画編集を学んでいます。国に帰ったら、カレン州で起こっていることに関するビデオを作って世界に知らせたいです。カレン州は70年前からずっと軍から抑えられていじめられてきました。たくさんのカレン民族も亡くなりました。このような酷いことも、世界の人々もミャンマー人たちが知らなかった。それを変えるために、メディアを使って世界に知らせたいと思っています。皆さん、どうぞよろしくお願い致します。

日本で活動している外国人を対象とした国内研修生2.0制度。来日の目的が勉学や就労ということで、従来の海外研修生と違い、研修終了後すぐに帰国するわけではありませんが、自分たちの国や地域、民族に対する強い意思を持った2名です。当会のシェアハウスで居住しながら、この1年間共に活動していきます。彼らの成長を長期的な視点で温かく見守っていただけますと幸いです。皆さまどうぞ宜しくお願い致します。

PHD 23期国内研修生 (2021年度)

佐藤 里紗



はじめまして、今年度から国内研修生 1.0 として活動させていただきます、関西学院大学 4 年生の佐藤里紗と申します。PHD 協会との出会いは、2018 年度の研修生が大学の講義でゲストスピーカーとして登壇して下さったことがきっかけでした。「草の根の交流による人材育成」という理念のもと国際協力活動を長年にわたり行っている PHD 協会の活動に感銘を受け、ここで学びたいと思い、国内研修生 1.0 として活動させて頂くことになりました。1 年間、国内研修生 1.0 として活動させて頂ける喜びを感じながら、今の自分にできることをしっかりと努め、今後国際協力の分野で活躍できるよう、日々学んでいきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

他己紹介

今年度の PHD 国内研修生の中で際立って大人っぽい印象の里紗さん。自分の意見をしっかりと持ち、はっきりと YES NO を言える頼もしい存在です。来年度は JICA 海外協力隊として海外を拠点とした活動を実現させるため、現在着々とその準備を進めています。冷静な判断力の中にある秘めた熱い思いを大切に、是非海外での国際協力の夢を実現させてください。応援しています。

「みんなのいえ」施設長 濱宏子



松浦 あおい

初めまして。松浦あおいと申します。この春に大阪女学院大学を卒業しました。大学にて人権問題を中心に勉強を始め、2018 年度ミャンマースタディツアーに参加しました。現地での活動で感じた元研修生の方々の優しさが当時の私の大きな支えであり、その後の活動の糧ともなりました。現在私はシェアハウスみんなのいえに住んでいます。困窮している外国人にとって「支え」となる存在を目指し、彼らと共に生活しています。この一年を通して、居住・就労支援、研修生サポートなど幅広く学んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

他己紹介

美容業界から一念発起して PHD に。在学中は、持ち前の行動力で企業や NGO と連携して講演会やプロジェクトを率い、課外活動の活性化に貢献した学生に贈られる「青草賞」を受賞。将来は「ネパールで女性の雇用をつくる」という大きな夢も。PHD での経験を糧として、これからどんな花が開くのか、とっても楽しみです！

総務担当 中村朱里

PHD 23期国内研修生紹介 (2021年度)

成田 航輝



はじめまして。社会人でインターンしている、成田と申します。はじめに、日々ご支援頂いている支援者の皆様に感謝申し上げます。前職は大学に勤務していましたが、インターンをする為に退職しました。学生時代は農業と畜産など勉強していました。海外にも関心が有ったことから、農畜産×国際協力がしたいと思いました。そんな縁もあり、それらの活動に関われることからインターンに参加しました。この経験を将来にも活かしていきたいと思っております。宜しくお願いします。

他己紹介

本来であれば、昨年インターン活動を予定していた成田さん。しかし、コロナ禍で全てキャンセルに。もどかしさや苦しさは相当あったと思うが、再開を待ち続けて今年ついにその時を迎える。同世代のロンさんやナンミミさんに優しく寄り添う姿が微笑ましい。食料支援活動でも、新たな協力企業と繋がるなど頼もしい活躍。PHD での経験を自らの成長の糧としてくれることに期待大です。

研修担当 山本健太郎



田村 華奈

兵庫県立大学 2 回生の田村華奈です。私はご縁があり PHD を紹介して頂き、人との繋がりを大切にしている理念に惹かれました。今まで NPO やボランティア団体で外国人支援に携わってきました。その経験の中で外国人が抱える問題に無関心な社会に対し、無力で悔しい気持ちを抱えてきました。PHD では社会を”もっとこうしたい!”を形にするべく取り組みます。私は徳島出身です。徳島の鳴門の渦潮のように、大きなエネルギーを持って周りを巻き込み、行動していきます。小さなことでも続けることで、それが連鎖し、必ず誰かの力になれると思っています。まだまだ未熟ですが、よろしくお願ひ致します。

他己紹介

やりたいことは全部やるぜっていう心意気がひしひしと伝わってくる華奈さん。今年度の文部科学省「トビタテ! 留学 JAPAN」で選抜され、初海外渡航は目前に。コロナよ去れ! と願うばかりです。芯は一本通ってるけど、肩肘張りすぎてない抜け感がちょうどいいんです。これからは己を信じて突き進んでいってください!

広報・啓発担当 中島麻

合田 ひな

はじめまして。大阪女学院短期大学に在学中の合田ひなです。大学入学前から子どもと貧困を主に国際問題に興味がありました。そして、2019 年に PHD 協会のタイのスタディーツアーに参加しました。ストリートチルドレンや、カレン族の学校訪問は、現地で直接目を見て学べる貴重な経験でした。それから PHD の国内研修生になることが決まりましたが、コロナの影響で 1 年先延ばしになり、2021 年現在、大学の在学期間を延長し、国内研修として活動しています。今後は、研修先での沢山の人と出会いを大切にし、途上国支援や現状をより多くの人に知ってもらえるように活動していきたいです。よろしくお願ひ致します。

他己紹介

2020 年 2 月のタイツアー参加者にして、2016 年から連綿と続く大阪女学院大学の系譜を受け継ぐ存在。タイツアーの感想で「一番大きな変化は向上心の上昇」と語り、「半分諦めていた国際協力」にも全力で取り組み中という、がんばり屋の合田さん。専門は Web デザイン。PHD で何かを掴んでほしいと切に願う。

事務局長 坂西卓郎

PHD Movement vol.30

～国内の困窮外国人と「共に生きる」の試み～

事務局長 坂西 卓郎=文
～分かち合い実践録～



「岩村昇ならじっとしていない」

コロナ禍で海外から研修生が招聘できない中で私たちに何ができるのか？新型コロナウイルス感染症の拡大後、初の会報となったPHD レター 144号（2020年7月発行）で「岩村先生、今井先生がご存命であればコロナ禍でどのような活動を？」という問いを提起した。その答えを模索する中で岩村史子さんの「岩村昇ならじっとしていないでしょうね」という言葉に出会い、前を向くことの大切さを教えていただいた。

2020年5月に神戸の外国人集住地域である長田区に移転したこともあり、まずはアウトリーチ、地域に出て関係者との対話を開始。その結果、コロナ禍で困窮している外国人の方々との出会いがあった。しかも、ミャンマーやネパールなど当会が研修生を招聘してきた国の出身の方も多かった。なにかできないか、そうしたいから「コロナ禍で困窮している外国人への居住支援」という新規事業が生まれた。

本稿ではその取り組みの途中経過を報告させていただきたい。

セーフティネットって何？

居住支援事業の目的は「セーフティネットになること」である。セーフティネットは「安全網」と訳され、いろんな意味合いで使われることがあるが、とにかく「安心や安全や提供するための仕組み」である。岩村先生は目の前に困っている人がいれば必ず行動を起こしたそう。日本という海外に来て、困っている人たちがいる、まずは行動を起こそうと始まった。

さらにセーフティネットの中身は大きく「安心な居住」、「いざという時の相談先」という二つになる。これらの活動にはおかげ様で会員の皆様からも「着実な支援活動」、「外国の方の状況には心を痛めていた」、「身近な支援も重要」と勇気づけられるコメントをいただいている。この場を借りて感謝申し上げます。

安心な居住→自立へ

不安定な居住や就労状態におかれている外国人はちょっとしたことで居住が脅かされることが多い。誌面の都合で詳述は割愛するが、最近は警察からの相談も増えてきた。釈放後、公的サービスでは行くところがないケースも多い。そういった困難な状況でも安心できる居住を提供するのがセーフティネット機能の一つ目だ。



シェアハウス「みんなのいえ」とは？

居住支援の中心的な活動として、「国際協力・交流シェアハウスみんなのいえ」が2020年10月1日に始動した。居室4部屋で定員9人、原稿執筆時点で延べ10人が入居した。みんなのいえは岩村先生の「共に生きる」というメッセージを具現化する形でシェアハウスとして運営している。

設立のきっかけは「外国人には部屋を貸してくれない」という現状だった。一説には10人の不動産オーナーの内、貸してくれるのは1～2人と言われている。日本人の保証人がいても断られるケースもあった。

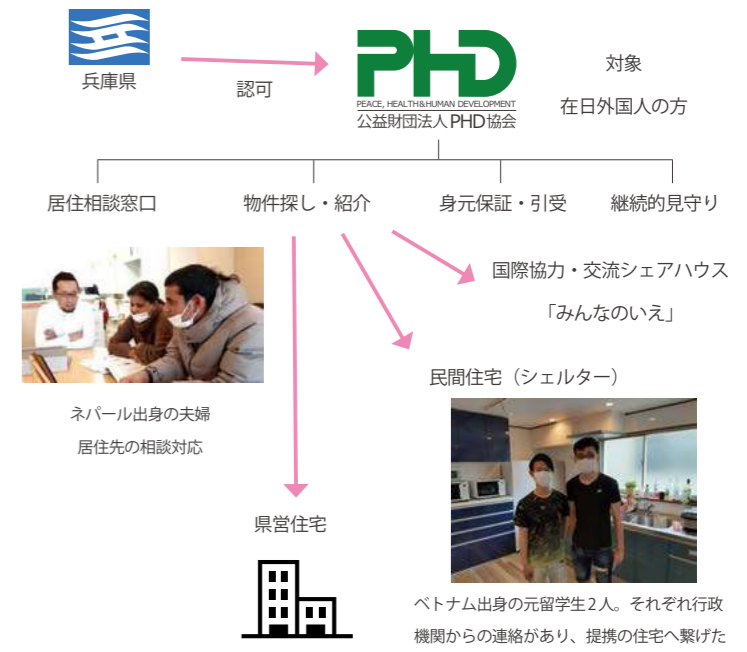
そういった状況を少しでも変えたいという思いが「みんなのいえ」という形になった。現在は生活困窮者及び研修生を中心に入居してもらい、共に生きる試みを実践している。ただし、数年にわたる長期間の居住をイメージしているのではなく、みんなのいえに居住し、態勢を整えば自立していく、一里塚のよ

PHD Movement

居住支援法人

住宅確保要配慮者居住支援法人
住宅の確保に特に配慮を要する者（外国人、高齢者、障がい者、シングルマザーなど）の住宅への入居サポート、情報提供、相談などの支援を行う。

「みんなのいえ」 在日外国人の生活セーフティネット



うな存在が理想だ。

居住支援事業は、2021年3月15日付けで兵庫県から居住支援法人の認可を受けた（兵居支援0015号）。図にあるように、今後は行政とも連携しながら居住支援をしていく。おかげさまで注目を集めており、4月28日には神戸新聞、6月24日には朝日新聞に記事を掲載いただいた。

相談事例「賞与間違い事件」

セーフティネット機能の二つ目として、大事にしているのがいざという時に相談できる関係性をつくることだ。

「いざという時の相談先」の一例として、当会が昨年末から支援している留学生在が被害にあった「賞与間違い振込事件」を紹介したい。留学生在たちが仕事を得ている人材派遣会社から、ある時に毎月の給与額相当分のお金が振り込まれた。留学生在が問い合わせたところ「賞与だ」という説明があったとかなかったとか。事実関係は不明だが、とにかくその情報が出回った。賞与なるものを受け取ったのは約20人強。しかし、実際にはただの誤送金だった。それが判明したのは10日ほど後だったので、その間にほとんどの留学生在がそのお金を使ってしまっていた。その回収に社員が家まで押しつけてきたそうで、留学生はかなり恐怖を感じ、私たちのところに「助けてくれ」と相談が来た。会社側と激しい交渉はしたが、最終的には今後の給与から分割で返金することで決着した。返済額を減らすなどの役には立たなかったが、留学生からは「PHDは私の家族のよう

に感じます」とメッセージをもらった。

困った際に頼れる存在があるだけで意味があると感じると同時に、留学生たちにはそういった存在が希薄なんだということも痛感させられた。そこで、みんなのいえは困った際の相談先として認識されることを目指している。賞与間違い事件のように実際的には役に立たないかも知れない。でも、悩み事を聞いて、共に解決方法を模索する存在になれたらと思う。逆に人生順調なら私たちのことは忘れてもらっていい、そういう存在を目指したい。

居住支援活動は新しい活動になるが、岩村先生が提唱された「共に生きる、弱者と」を目指すのは変わらない。ご共感いただければぜひみんなのいえサポーターとしてご参加、ご支援いただきたい。

PHD With MYANMAR

PHD元研修生たちの今「ミャンマー」

山本 健太郎 = 文



Nishi = 作 Reona = 画

2021年2月1日のクーデター勃発以降、ミャンマー国軍は、非暴力による抗議活動続ける市民たちに実弾発砲を含む非人道的な弾圧を続けています。軍の止まらない残虐行為に対して、少数民族の軍事訓練を受けて武装する市民も増加しており、ミャンマーの内戦化を懸念する声も高まっています。市民に向けられた銃口、そして、ひとりひとりの身に差し迫る危機。苦境の中、日々闘い続けるミャンマー元研修生たちの心の訴えを届けます。

👉 私は軍を壊したい、でも私には戦うための銃がない。本当は持ちたいけど
 ————— カインソー (1996年度14期)

軍が大統領とスーチーさんをずっと閉じ込めているのは、心が痛いです。今は軍が国をコントロールして、国民の人権も無くなっています。現在、Z世代の若者がPDF (国民防衛隊) に参加して、マンガや梅干しの畑で銃の使い方や応急処置の訓練を受けています。私は彼らの頑張りをサポートしたいです。
 PHDの皆さん、どうか研修生だけでなく、ミャンマーの国を見守ってください。



👉 今、村には安心安全がない。私たちの命もいつ軍人に取りられるか分からない。
 ————— スー・ステイン/ス (2006年度24期)



以前はよくデモをしていました。軍に反対するために。でも今はデモをすると軍が来て、私たちを連れていきます。だから私は自分でできることをします。応急処置の勉強をしたり、CDM (市民の不服従運動) をする人たちのために住む場所を提供しています。特に保健の先生や看護師は今危ないです。中には、自分の家を追われ、帰る場所がない人もいます。故郷に帰ると軍人に捕らえられることもあるから。私はそういう人たちを助きたい。PHDの皆さん、どうかミャンマーのことを世界に伝え続けてください。それが私たちの力になります。

👉 今はもう、目の前のことなんか見たくない。それでも、私は心の中に決めている。軍には絶対負けない。
 ————— サントウンウー/サントウン (2014年度32期)

今、心の奥がとても寂しくて、痛いです。毎日起こる悲しいニュースを見て、聞いて、その繰り返し。軍人たちがどれだけ悪いことをしているか、国民はみんなよく知っています。軍に勝つために、私の心はそのことだけです。私たちの民主主義は、私たちの力で勝ち取ります。



👉 イェローボ、アウヤウーディー (私たちは軍に勝つ、勝つんだ)

※元研修生の安全のため、インターネット上での記事の掲載はお控えいただくようお願い申し上げます。

PH 元研修生たちの今「ミャンマー」



私は軍と直接戦うことはできません。ですが、毎日お祈りを続けています。「早く平和になりますように」と。

————— サンダーモー/モーモー (2018年度36期)

今、ミャンマーの国は大変です。その中でも、教育の問題が大きいです。昨年はコロナ、今年はクーデターがあって、ミャンマーの子どもたちは2年間ちゃんと教育を受けることができていません。本当に可哀そうです。私は、自分の孤児院で子どもたちのために教えることを頑張っています。

PHDの皆さん、私たちが大変な時にサポートをしてくれてありがとうございました。本当に嬉しかったです。



私はデモには参加できません。今の生活は苦しいですが、できることを頑張っています。

————— タンタンミエ (2017年度35期)



今、クーデターやコロナの影響で私の生活もとても大変になりました。仕事の給料も少なく、物の値段も高いです。父は元軍人なので、その年金で家族がなんとか生活しています。私はデモなどに参加することができません。家族が年金をもらえずに生活が苦しくなったり、軍に命を取られるかもしれないからです。

PHDの皆さん、ずっと連絡が取れなくてごめんなさい。コロナで生活は苦しいですが、私は毎日頑張っています。PHDのサポートをもらってすごく嬉しかったです。本当にありがとうございました。



市民が毎日亡くなっている。ただ苦しい、心が痛くて、痛くて。

————— ティダ (2007年度25期)

軍人が市民を殺している。全然止まらないです。ずっと国を壊しています。私も今はCDMをしているので仕事が無いです。以前からコロナのせいで、2020年3月17日から私の保育園も閉まっています。そして、今は軍の問題があります。村の近くにも軍人たちがいて、安心できません。PHDの皆さん、できるサポートを続けてください。これからも宜しくお願いします。

PHDのサポートをもらってすごく嬉しかったです。本当にありがとうございました。



変わってしまったミャンマーのことが本当に嫌いです。今は自由に何もできない。民主主義もない。

————— タウンティンテー/テー (2005年度23期)

自分に何ができるのか、よく考えます。知っている情報があったら、できるだけ村の周りの人たちに共有するようにします。もし困っている人がいたら、軍のように人を傷つけるのではなく、サポートしてあげたい。

PHDの皆さま、研修生だけでなく、他のミャンマー人のためにも一緒に闘ってください。宜しくお願いします。



今、ミャンマーでは正しいことを直接口に出して言えません、悲しみに胸が痛みます。

————— スウェウイン/コースエ (2002年度20期)



村には軍をサポートする人が多いです。私はずっとNLD (国民民主連盟) をサポートしてきたから、彼らが私の行動をずっとチェックしています。だから、今は家にいられない。軍人がいつ来るかわからないから、よく親戚の家や他の村人の家に身を隠して寝泊りしています。数カ月前はデモをしたけど、今はできません。代わりに、村でCDMする人たちに食べ物や住まいのサポートをし続けています。

今、私たちの国には安全がないし、ルールすらない。真のリーダーがいない国です。

————— ゴーウイン (2004年度22期)

警察も軍のコントロールで国民を守ってくれない。自分のことは自分たちで守らなければなりません。私は村の人たちへ情報はたくさん流します。生活が苦しい人たちに米や油をサポートしています。CDMをする人たちに、寝床を貸します。

PHDの皆さん、ミャンマーが軍やコロナのことで大変なときに助けてくれてありがとうございます。問題がなくなって、新しい研修生を日本へ送れる日を待っています。



※元研修生の安全のため、インターネット上での記事の掲載はお控えいただくようお願い申し上げます。



With Myanmar基金「寄り添いの想いをカタチに」



頂いた寄付の合計：1,652,926円（2021年7月15日時点）
送金額：1,250,000円（2021年5月21日）

ミャンマー研修生それぞれのCDM（市民の不服従運動）参加のための生活費支援やデモ活動のためのバナー代やガソリン代。また、村やスラムの困窮世帯、戦災孤児が集う孤児院に配る食費、衛生用品にかかる費用として活用させていただきました。

PHD協会では、民主化を目指す研修生たちへ寄り添いと連帯を示すために、With Myanmar基金を設立いたしました。その後、皆さまのご理解とご協力のおかげで多くの支援金を頂き、その想いを現地で奮闘するひとりひとりの研修生へ届けることができました。心より感謝申し上げます。

前回の会報で「第二次募集を行う予定です」と記載しましたが、混迷するミャンマーにおける次の展開は見いだせていません。申し訳ありません。よって、現状は第一次募集を継続しながら、

研修生との対話を続けたいと思います。次の道が見えたら会報にてご報告させていただきます。引き続き苦境にあるミャンマーの人たちへ関心を持ち続けていただければ幸いです。今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。



ご寄付と共にみなさまからたくさんのメッセージをいただきました。

- ・ミャンマーで起こっていることが本当に悲しくて心配です。一日も早く平和が訪れ、皆さんの笑顔がみられるよう心からお祈りしています。
- ・ミャンマーの村の夕暮れ時やトラックの荷台から眺めた道沿いの景色は心の原風景です。少しでも早く平和が訪れますように。
- ・ミャンマーの家族に笑顔がもどりますように。
- ・ミャンマー市民をサポートします。
- ・負けるなミャンマー市民！
- ・市民に平和を！軍事打倒、スーチさん頑張れ。
- ・一日も早く安心して眠り、生活ができますように。
- ・「ビルマ」にいる市民に何かできることを探していました。でもホントウは皆さん生きていてと伝えたい。



モーママ（2013年度31期）

PHDの皆さんのサポート、本当にありがとうございました。研修生たちや村の生活が苦しい人々にとって、思ってもみなかったサプライズでした。本当に助かりました。サポートをもらった人たちの顔にも笑顔が溢れました。

ミャンマーはこれから良い方向に行かない。私はそんな気がしています。軍のせいで、たくさんの人々が亡くなりました。悲しみと怒りで言葉もないです。今より厳しい状態になったときに、生活に困る人が増えるかもしれません。その時、もし私に命があったら、彼らを助けてあげたいです。今回皆さんがしてくれたように。私も生活が大変な村人のサポートやお祈りとか、今できることを続けます。

皆さん、どうかミャンマーで起きていることを伝え続けてください。日本だけじゃなくて、世界に届くように。宜しくお願いします。



久しぶりに元研修生たちが集合



サンティダエー（2015年度33期）

皆さんがミャンマーのことを大切に思って、このサポートをしてくださったこと、心から感謝しています。ずっと忘れないです。本当にありがとうございました。

ミャンマーの問題は終わりが見えません。軍は自分たちに反対する人を傷つけて、国を壊し続けています。これからもっと状況は悪くなるかもしれません。軍は決して、真の政府ではありません。今は未来を考えられないくらい、心が痛くて、苦しくて辛いです。デモや集会もできず、私たちにできることも限られています。でも、毎日お祈りを続けています。「軍に負けない」、この気持ちをずっと心に持ち、生きていきます。

ティダチャー / マーチョ（2016年度34期）

皆さんのサポート本当にありがとうございます。日本でお世話になった先生、お父さんやお母さんをよく思い出します。今、私たちには安心も安全もないです。これまで国のためにたくさんの方の命が軍に奪われました。毎日が心配で明日が見えないです。でも日本にいるミャンマー人や皆さんが頑張っているのを見て、嬉しいです。心が強くなります。皆さん、ミャンマーの事を忘れないでいてくれてありがとうございます。

ゼンモーエー / ゼンゼン（2019年度37期）

皆さんのおかげで、生活が苦しい村人たちに食べ物をお届けことができました。温かい気持ちとサポートをいただき、本当にありがとうございました。ミャンマーと日本、離れていても皆さんと心がひとつに繋がっていると感じました。

PHD ミャンマーへの支援活動

Art & Talk is our Weapon

主催 ミャンマーの民主化を支えるHYOGO市民の会



毎月開催「ミャンマーの民主化のために命をかけて闘っている市民達を応援する」イベント。国内研修生が中心に企画した6月27日オンライン開催の動画はPHD協会Facebookよりご覧いただけます。

ラジオ出演@FMわいわい

「Art&Talk is our Weapon～ミャンマーを知ろう！」にて、ナンミミさんと坂西事務局長が出演、ミャンマーについてインタビューを受けました。FMわいわいのYoutubeにて、常時視聴できます。



4月28日 第1回



5月29日 第2回

共同要請書

「日本政府はミャンマーに対する経済協力事業の全面的な見直しを」

日本政府に向けて表題の要請書を30団体と協働で提出しました。その想いは一つ、「私たちの税金がミャンマーの人たちの命を奪う銃弾になってほしくない」ということに尽きます。

ミャンマーの人たちは国際社会の後押しを強く望んでいます。今回の要請に名を連ねることはリスクもありますが、私たちができるミャンマーへの寄り添いとして賛同させていただきました。

在日ミャンマー人 クーデター抗議集会

主催 ミャンマークーデター抗議西日本実行委員会

神戸市内の公園にて毎月1回・日曜日にクーデター抗議集会が開催されています。（自由参加・申込不要）

国内研修生・ミャンマー留学生と共に参加しています。



6月4日湊川公園にて

PHD News

◇ 40周年記念式典オンライン開催のご案内

PHD協会は今年度、設立40周年を迎えます。皆様のお支えで、40周年を迎えられるのは大変ありがたいことです。感謝の気持ちをお伝えする場として、記念式典を開催します。

当初は20周年、30周年のような大勢の方にご集っていただいていた式典を想定していましたが、コロナ禍の中を踏まえオンラインでの開催とさせていただきます。皆様と直接お会いできないのは心から残念です。

またオンラインということで、ご参加が難しい方もおられるかと思えます。事務局の方でできるだけサポートをさせていただきますので、ご不安な方は事務局までご連絡いただければ幸いです。

詳細は11月上旬に記念誌と共に皆様の元にお送りさせていただきますが、まずは開催日時をお伝えさせていただきますので、ぜひご予定下さい。

11月27日は岩村先生の昇天日でもあります。オンラインではありますが、皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

◇ 「みんなのいえ」マンスリーサポーター制度発足

「今晚、泊まる場所がない」、ある日警察から寄せられた相談です。様々な理由で住居や在留資格を失った外国人の方は公的サポートも得られず、行き場を失います。50人のマンスリーサポーターがいれば、そういった方に安心な住居を提供できます。そして2-3ヵ月で態勢を整え、自立していく好循環の輪を作っていきます。ぜひご参加をお願いします。

マンスリーサポーターとは…

- ・毎月継続して「みんなのいえ」を支えていただくご寄附です。
- ・毎月1,000円をクレジットカードから自動引落し。
- ・ご寄付は税額控除、所得控除の適応を受けることができます。

(マンスリーサポーター領収書は当年1月～12月分をまとめて「年間領収書」として翌年1月に発行いたします。)

マンスリーサポーターに支えていただくのは…

- ・光熱水費、食費、医薬品、消耗品、家具、清掃費、自立のための研修費などです。

マンスリーサポーターになっていただいた方には…

- ・月1回「みんなのいえ」の様子やお礼をメールでお送りします。
- ・会報「PHD LETTER (年3回発行)」と事業報告書をお届けします。



◆開催日時 11月27日 土曜日

第1部 記念式典 14:00～16:00
第2部 交流会 (予定)

PHD協会HP



www.phd-kobe.org

参加のお申し込みはPHD協会ホームページより受け付けております。当日の配信・参加URLは開催日の1週間前には、お申し込み時のメールアドレスにお送りさせていただきます。



○月×日のPHD協会

職員 中村

在宅勤務を始めて1年。設備面は充実し、快適。目下の課題は娘の侵入。去年は無理だったドアノブに届くように。父の目も掻い潜る成長は嬉しいが。

職員 中島

ある日の午前、事務所で一人。電話なし、来訪者なし、郵便もなし。レアな日、会報制作がサクサク進む。快感。ずっと一人だと寂しいけども。

職員 濱

旧事務所は神戸の山の手、坂の上。現事務所は長田の下町、坂道なし通勤。汗かきにはありがたい2度目の夏。フラット万歳、大好き。でも、一日3ℓの汗。

職員 古寺

新しい会計システムを導入。今度は在宅にも対応したクラウド型。便利だが、寄る年波のせい、なかなか馴染めず。ただいま奮闘中。

職員 坂西

兵庫県知事選立候補者の公開討論会を企画。立候補者勢ぞろい。大事なんだと感じたのは話していない時の立ち振る舞い。人柄が出る。気を付けよう。

職員 山本

シェアハウス開設に伴い、家具や家電の購入業務を一手に担う。意外にも値切りの才能を発揮。人柄が変わる?大きな買い物の際には値切りの山本までお声がけを。

以上、書くのがラク? (24,25,27,29,30,32) な順

「みんなのいえ」マンスリーサポーター申し込み



マンスリーサポーターのお申し込みは、当会Webサイトまたは上記のQRコードからお願いいたします。